



ニッポン  
ドクター和の

# 臨終図巻

大阪・北新地の旨い店が並ぶ通りで、ひときわ風格ある佇まいが「神田川本店」です。白い暖簾をくぐれば、出汁のいい匂いとともにその人は笑顔で迎えてくれました。最初に医者の方輩に連れて行ってもらったのは、もう四半世紀も前になるでしょうか。

まだ若造だった僕に対しても分け隔てなく接客してくださり、目の前で大きな伊勢海老を捌いてくれた夜を、昨日の事のように覚えていません。和食の繊細さをここで教えてもらいました。

テレビでも活躍された、浪花を代表する料理人・神田川俊郎さんが4月25日、大阪市内の病院で亡くなりました。享年81。死因は、新型コロナウイルス肺炎との発表です。

報道によれば、神田川さんは4月16日に自宅で体調を崩し、緊急搬送。PCR検査でコロナと判

## 料理人 神田川俊郎



長尾和宏（ながお・かずひろ）医学博士。東京医大卒業後、大阪第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

りません。大阪、兵庫はコロナ変異株の脅威にさらされています。その模様と僕のが4月24日に『報道特集』（TBS系）でも取り上げられました。今、コロナで救急車を呼んでも受け入れ病院がないケースが多々あります。あまり大きな声では言えませんが、75歳以上の高齢者を一律受け入れ拒否している病院もあるそうです。

分が診た陽性患者さんは誰ひとり死なせないぞ！という想いでステロイドとイベルメクチンを持って連日、尼崎の街を駆けずり回っています。それなのに、神戸や梅田の繁華街で買い物や飲食を楽しんでいる人たちがいる……こちらは死の恐怖と隣り合わせの戦場と化しているのに、一体どうなっているの？と叫び出したくなるのをぐっと堪えています。

今回の変異株は、持病のない人も重症化することが特徴です。神田川さんのようなお元気だった人でも突然、命を奪われてしまうのです。いつまでこの我慢が続くのか、ワクチンを打ち終えれば、元の生活に戻るのか…それは、誰にもわかりません。

またあの「神田川本店」に伺って、俊郎さんに献杯できる夜は来るのだろうか。確か、「あたたかい人には、あたたかい人が集まる」という直筆と鯛の絵が店に飾られていたはず。集まらない今、主を失ったあの絵はどうしているでしょう。

# 和食の繊細さを教わった思い出